

「N'2030 Plan」の 現状と5年間の進捗状況

皆様に、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。二松学舎は創立146周年を迎えます。

さて、社会はコロナとの共存の方向で進んでおり、大学、両附属高等学校・附属中学校も対面授業に切り替わっています。ゼミやサークル・部活動等、従来の学校生活が戻りつつあります。

本学の長期ビジョン「N'2030 Plan」は、5年が経過し、結論から申し上げますと、皆様方のご尽力・ご貢献のおかげで、順調に進捗、我々は着実にステップアップしております。この5年間の実績を簡単に振り返りましょう。

まず大学部門では、優秀な教授陣と高い教育研究レベルの維持という目標は、総じて達せられましたが、研究面での科研費採択件数が低く、改善が必要です。学生満足度等教育体制の充実度は、両学部ともに目標値を上回り、在学生における教育内容の評価が向上、今後もその維持が望まれるところです。また、リテラシーとしての教養教育を展開するため、2022年度導入した「新カリキュラム」には、新しいキャリアデ

ザイン・数理データサイエンス・AI等の各科目を包含しており、卒業時の成果が期待されます。加えて、21年度末から「ディプロマサプリメント」の交付が試行導入され、今後の効果が見込まれています。

グローバル化の点では、国際交流センター機能を拡充し、多様な海外留学プログラムの提供の他、留学可能な協定校が中国、北米、欧州等17校に、また学術交流を主にする協定校は23校となり、国際交流推進度は顕著に上昇しました。その他、東アジア学術総合研究所を中心に、シンポジウム等の活発な活動が見られました。

ICT化はネットワークの大規模高速化&大容量化工事を実施、また21年度以降入学生にモバイルノートPCの無償貸与を開始しました。

次にキャリア教育面では、2017年度以降就職率は平均98%で推移。今後新規就職先の開拓が重点課題です。

学部・学科等構成面では、2017年に都市文化デザイン学科、翌年に国際経営学科を開設、昨年4月には歴史文化学科、大学院国際日本学研究科(修士)を開設、この間収容定員は学部・大学院あわせて2,514名から2,934名と、420名の増員となり

ました。

キャンパス整備面では2017年に九段5号館を取得、国際交流センター、共同研究室等を整備しました。

奨学金制度は、国の修学支援法による支援に加え、本学独自の制度の拡充(奨学金基金である第3号基本金を5.09億円に計画的に積み増している※目標10億円)。また、長引くコロナ対応で大学学部生および大学院生全員に1人5万円支給(2020年度)をはじめ両附属高等学校・附属中学校も併せてさまざまな防疫対策を実施、万全な安全確保を図りました。

附属の中学校と高等学校の教育改革は、『論語』に基づく人格教育を基本に、アクティブラーニングを通じた教育体制でさらなる進学校化を目標としております。現状、附属高等学校は目標達成のため引き続きの課題克服が必要です。附属柏中学校・高等学校は、千葉県内進学校としてのブランドが定着、グローバル化・ICT化対応も遅滞なく行っていました。

法人所管事項では、この5年間安定した財務基盤を維持。また人材育成面では「学校法人二松学舎SDに関する規程」による階層・職務別の

研修体制が定着し、教職員の資質向上促進のための全学的な体系が整備されています。ガバナンスの充実面では、2021年に「学校法人二松学舎 二松学舎大学ガバナンス・コード」を公表しました。

創立150周年に向けた 本学の課題

今後の課題は、①2022年度導入の新カリキュラムの実質化を進めていくこと、②教務基盤システム(Live Campus)の更新やLMS(注)の新規導入による教学マネジメント面のDXの推進です。教育現場や研究環境にデジタル技術を取り入れ、教育の質をさらに深化させ、学修者本位の教育、学習成果(Learning Outcomes)の引き上げ、出口の保証の一層の充実を図っていくことです。

今後、創立150周年に向けて、大学、両附属高等学校・附属中学校をますますレベルアップさせ、いつも選ばれる大学、高校、中学校としての揺るぎない地位を目指して、皆さんとともに、確実に着実に歩んでいきたいと考えております。引き続き皆様方のお力添えを切にお願いして、新年の挨拶といたします。

(注) Learning Management System

2023年 年頭のご挨拶

“Step by Step Steadily”

—— 一步一步 着実に ——

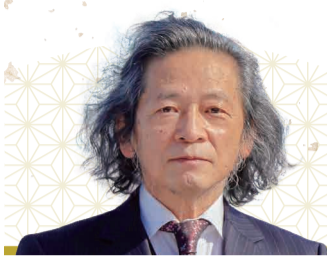
創立146周年を迎える二松学舎と「N'2030 Plan」5年間の進捗状況、今年の課題

学校法人二松学舎 理事長 水戸 英則



2023年 年頭のご挨拶

昨年10月に145周年を迎えた二松学舎。
新たな年を迎え、学長、両附属校長の
メッセージをお届けします。
150周年に向け、本年も着実に歩んでまいります。



あけましておめでとうございます

二松学舎大学 学長 江藤 茂博

新しい年、さて今年は何を始めようか、また何が始まるのだろうか、期待や不安が混じった、妙なざわつきを感じ取る季節となります。そしていつの頃からか、また同じようなことを繰り返すのは嫌だという思いで、この新年という時間を私は迎えてきたようです。決意みたまものではなく、振り返るよりは、すこしでも前に進みたいという気持ちでしょうか。もちろん、大きく見ると、私たちの日々はそのほとんどが繰り返されることばかりかもしれません。それでも、新しいことに挑戦する心、よりよいことに向かう気持ちは捨ててはいけないと思っています。特に教育者の仕事は、毎年毎年の新しい世代との出会いとなりますし、また研究者の仕事は、常に新しいことに立ち向かうこととなります。そして研究者にとって何の成果も得られな

かった年は本当に寂しいものです。教育研究に従事してきたことから、新しい年を迎えるにあたり、こうした心の在り方が私の中に作られてきたのでしょうか。

学校運営もまた、大学をさらによりよいものにするにはどうすればよいのかと、毎年毎年繰り返し考えることとなります。よりよい教育機関として変貌し続けることで、学生・生徒が大きく育ち、社会をさらによくしてもらいたいと思います。もちろん新しいことがよいことだとは限らないにしても、よりよいところを見つけ、それを伸ばしていくことは大切です。それが日々の教育活動ですし、学校運営という公的な役割の中で、教育研究者が心がけていることでもあるのです。

この新年という表現は、一年間という大きな単位ですが、例えば『大

学』にある「苟（まこと）に日に新たに、日々に新たに、又日に新たななり」は、まさに毎日毎日のそれです。そこでは、日々、新しい自分に、そして意味ある私になるようにと突き付けられています。今日一日で、何を学んだのか、そのことで考えを深めることができ、さらに昨日よりよりよい行いができたのかと、問われているのです。

もちろん、教育も学問も、こうした日々の進展はとても大事なことです。言い訳のように聞こえるかもしれませんが、毎日、すこしでも本を読み、すこしでも原稿を書くことに努力してきました。そうであっても、百年の計という視点もまた重要だと思います。教育を受けた学生たちもやがて年齢を重ねて、次の世代、さらにはその次の世代にも大きく影響を与えていくことになる

からです。伝統の力という言葉の中には、よき学び舎であることが、後に大きな影響力となって自らに戻ってくることも含まれているのでしよう。

「日々新たに」は、凡庸な私には相当な努力が必要で、しかも成果など微々たるものでしかないかもしれませんが、せめて「年々に新たに」くらいはなんとか実践したいと思います。そして、その先に教育機関としての百年の計にわずかでも寄与できるならば、これこそ働きがいがあるというものです。

こうして年月というものに思いをはせられるのも、この新年のよいところかもしれません。ぜひ、昨年一年を振り返り、そして新しい一年には、さらに新しいことやよりよいことに向かって、皆さんそれぞれに挑戦してほしいと思います。

そして私も、新しい年には、教育者としてどんな学生たちと出会うのか、研究者としてどのような研究成果を生むことができるのか、期待と自戒を込めて、新しい年号を使い始めることにしようと思います。

伝統から
新たなステージへ飛翔

二松学舎大学附属高等学校 校長 鶴飼 敦之

新年明けましておめでとうございます。謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

2023年の干支は「癸卯（みずのとう）」です。卯（兎）は跳躍する姿から「飛躍」・「向上」を象徴するものとして親しまれてきました。成長という意味もあり、新しいことに挑戦するのに最適な年といわれています。生徒・保護者、教職員、同窓会員、地域および関係の皆さま、そして本校にとりまして、そのような一年となりますよう心からお祈り申し上げます。また、校長として、その一翼を担うことができよう一層精進してまいりますので何とぞよろしくお願い申し上げます。

昨年は、二松学舎にとって145周年という記念すべき年でした。本学ゆかりの方々とともに卒業生、在校生も大きな喜びに包まれたところでした。今年は、本校の創立75周年を迎えます。これまでの伝統をしっかりと受け継ぎ、新たなステージに向けて「心を育て、学力を

伸ばす」方針の下、さらなる教育内容の充実・発展に努めてまいります。

さて、本稿執筆時点で総合型選抜など、いわゆる大学の推薦入試において、見事栄冠を勝ち取り、職員室に報告に来る生徒の声が校長室にも聞こえてきます。一方で大学入学共通テスト受験等の一般選抜入試に向けて取り組む生徒もいます。一人一人の努力が実ることを改めて念じざるを得ません。受験という試練を乗り越え、大きく成長してくれることを期待しています。

学校においては、新年の幕開けは、年度の締めくくりの時期でもあります。本校に赴任して9カ月、生徒の実情と本校をめぐるさまざまな情勢を直視し、使命と責任を果たすため、教職員の共通理解を図り、新年度に向けて準備を進めてまいります。本年も本校の教育方針や教育活動にご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお祈り申し上げます。



人間力・学力のさらなる向上

二松学舎大学附属柏中学校・高等学校 校長 七五三 和男

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

新年を迎え、皆さま方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

ここ数年、新型コロナウイルス感染拡大による安全等への配慮から、予定されていた多くの行事が中止または延期、内容の変更を余儀なくされてきました。誰もが経験したことのないコロナ禍の中、生徒はさまざまな不自由や我慢を強いられてきました。しかし、この試練の中で自分のやるべきことを見失わず、それぞれの目標に向かって意を尽くし、力を尽くして頑張ることができるのが、附属柏中学校・高等学校の生徒たちです。

昨年はその困難を乗り越え、自己の成長につなげる各行事が、さまざまな感染対策の下、徐々に幕を開けることができました。その一つ、松陵祭でのテーマは「にひやっかりょうらん二百花繚乱～ふたたび二松で二度花が咲く～」でした。くすぶっていた青春のつぼみが、まばゆい光を浴び

て、今一斉に花開く、まさに生徒の気持ちが表れていたように思います。と同時に「何とか生徒に思い出を」という先生方の強い思いも感じたところです。

さて昨年4月、基本姿勢である建学の精神と校訓および教育目標の発揚・論語による人格教育の下、重点指導項目を定めました。本校教育の2本柱、「人間力の向上」「学力の向上」への取り組み強化と、さわやかで活気ある進学校を目指すというものです。

そして、高等学校では2年連続入学者大幅増により、計画的定員管理対策を、中学校では新たな2コース制導入により、偏差値上昇・基礎学力の伴った入学者確保を課題に取り組みます。中学校・高等学校ともに、切磋琢磨できる環境づくりが重要と考えます。これから大学一般入試も本格化、大いに期待するところです。

関係の皆さまのご理解とご支援のほど、よろしくお祈り申し上げます。

設置校 NEWS

このページでは、大学、附属高等学校、附属柏中学校・高等学校でのさまざまな行事や学生・生徒の皆さんの様子をピックアップしてお届けします！

大学

2022年度春学期～

両学部で体験型授業や外部講師を招いた講演等を開催

これまで、新型コロナウイルスの影響で制限を余儀なくされていたさまざまな授業が、両学部ともに徐々に再開し始めている。

文学部では、3年ぶりに授業の一環として外部講師を招いた特別講演等が復活。国文学科では、大学からほど近い国立劇場での歌舞伎鑑賞(6/12)に加え、『この世界の片隅に』等で知られるアニメーション映画監督の片淵須直氏による講演会(10/1)を開催した。中国文学科では、舞台芸術を通して中国文化を身近に感じてもらうため、新潮劇院・一般財団法人日本京劇振興協会による京劇の鑑賞会(7/2)を中洲記念講堂で実施。都市文化デザイン学科では、イベントプロデューサーの菅波和也氏によるイベント業界のこれまでとこれからのについての講演(7/23)や、吉本興業所属のフランポネと藤田ゆみ氏をお招きし、お笑いワークショップ(6/15・25)を開催した。昨年4月

に開設した歴史文化学科では、日本文化に対する理解を深めるため、国立演芸場で落語の鑑賞会(7/10)を行った。

国際政治経済学部では、より一層PBL(課題解決型の授業)に力を入れている。これまでオンラインで行う機会が多かったが、今年度は実際に企業の方を教室にお招きし、活発な意見交換を行いながら、企業が提示する課題に対して学生が解決策を提案するといった授業が展開されている。

本学では今後もこのような取り組みを実施し、直接触れて、感じることでできる体験型および課題解決型の授業を、両学部ともに学修の重要な要素として展開していく。



文学部中国文学科の京劇鑑賞会

附属柏高校

2022年8月24日・9月29日

英語スピーチコンテストが校内外で開催

コロナ禍で中止となっていた「スピーチコンテスト」が校内外で徐々に再開し、附属柏中学校・高等学校の生徒たちの活躍の場が広がっている。

2022年9月29日には、「令和4年度・松戸地区英語スピーチコンテスト」が3年ぶりに千葉県立我孫子高等学校で開催された。このコンテストは今年で73回目を迎え、Reading部門、Recitation部門、Speech部門から応募者を募り、千葉県内の高校生がそれぞれのテーマで英語のスピーチを行い、各部門優勝者が県大会へと出場する。附

属柏高等学校からは1年Reading部門で1年5組の篠田佑人さんが、「A Feeling for music」と題してベートーベンと音楽の広がりについて発表を行い2位に入賞、同じく1年Recitation部門では1年2組の山下琉菜さんが、「Non-Verbal Communication」と題して言葉以外の要素が意思疎通に及ぼす影響について発表を行い2位に入賞した。篠田さんは「大勢の前での発表は緊張しましたが、感情を乗せて読めるよう頑張りました」、山下さんは「とても緊張しましたが、発音やイントネーションに気をつけて発表することができました」と入賞への喜びを語った。

この他、2022年8月24日に行われた「令和4年度・柏市中学校英語発表会」では、3年C組の栗原空雅さんが優勝、校内でも松陵祭1日目に「ESS部主催・英語スピーチコンテスト」が行われ多くの生徒が活躍した。



山下琉菜さん(左)と篠田佑人さん(右)

附属高校

2022年10月25日～28日

3年ぶりに実施 沖縄修学旅行 快晴の4日間

附属高等学校2学年は、2022年10月25日、待望の修学旅行・沖縄へと出発した。この学年の生徒たちは、新型コロナウイルスの影響で中学校の修学旅行が中止となった生徒が全体の9割に上り、生徒はもちろん保護者からも実施を望む声が多く寄せられていた。そのような状況の中、3年ぶりの修学旅行を何としてでも実現させようと、修学旅行に関わる多くの人が準備を進め、出発当日を迎えた。

修学旅行前半は平和学習をテーマに、太平洋戦争における沖縄戦について、また戦後から現在に至る沖縄のことを学ぶ行程で、戦争体験者の方の講話を聴き、沖縄県平和祈念資料館をはじめとするさまざまな施設を訪れた。生徒たちは、事前学習としてミュージカル「ひめゆり」の舞台を鑑賞した上でこれらの施設を訪れたことで、沖縄の歴史をより深く心に刻んだ。また、2022年は沖縄の本土復帰50周年という節目の年。歴史を振り返るよい機会となった。



カヌー体験の説明を聞く生徒たち

修学旅行後半は、沖縄の自然や文化体験をテーマに、いくつかのプログラムを選択できる形とした。一番人気は残波ビーチでのマリンスポーツ・シーサー作り体験のコースで、その他、伊江島でのサイクリングや、マングローブの観察とリポートレッキングを組み合わせたコースに分かれ、生徒たちは全身で沖縄を体感した。

沖縄は全日程を通して快晴で、美しい青空と青い海に恵まれた。体調不良者が出ることもなく、生徒たちはすべての行程を100%楽しみ、最高の修学旅行となった。

附属柏中学校

2022年9月17日・18日

来場者体験型の科学実験教室が大盛況

2022年9月17日・18日の2日間、3年ぶりに附属柏中学校・高等学校で「松陵祭」が開催された。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、保護者、在校生の友人・知人、卒業生に限り、事前予約制で実施した。

例年、中学校では松陵祭の催し物として総合学習の成果発表会を行っている。今年も、1年生は柏市の手賀沼に関する探究学習の中間発表を、3年生は自問自答論文の中間発表を行った。一方、2年生は発表会ではなく来場者体験型の科学実験教室を企画し、生徒が教師役となって実験教室を盛り上げた。

実験テーマは16あり、ある班は「つかめる水の作成」に挑戦した。水と2種類の化学調味料を混ぜ、化学反応により膜が作られることで水風船のように水を閉じ込めることができる。生徒は来場者と一緒に作成しながら、この実験が人工イクラにも応用されている話などを織り交ぜ原理の説明を行い、専門的な事



来場者に実験手順を説明する様子

象を来場者に分かりやすく伝えた。

また別の班では、小学校の時に楽しかった遊びの経験から「スライムづくり」をテーマとし、2種類の化学薬品を混ぜ、絵の具やビーズなどを用意しオリジナルのスライム作りの場を提供した。来場者には子ども連れの方も多く、親子一緒に楽しめる科学実験教室の企画は大盛況だった。

生徒たちは空き時間を利用して3年生の発表や、高校の催し物のお化け屋敷や縁日などへ積極的に足を運び楽しんでいた。

3年ぶりの松陵祭は、来場者の皆さんにひとまわり成長した生徒の姿を見てもらうよい機会となった。

二松学舎「創立145周年記念募金」

学校法人二松学舎では、現在、二松学舎「創立145周年記念募金」を募集しております。今回は、2022年9月1日以降、10月31日までに入金事務処理が完了した方および附属高校野球部第104回全国高等学校野球選手権大会出場支援にご協力をいただいた方のご芳名を掲載いたします。ご芳名は、申込書や振込用紙、インターネットなどの申し込みフォームに記入されたご依頼人氏名の表記（敬称略）とさせていただきます。（掲載を辞退された方々のご芳名と口数は除かせていただいております。）

寄付者芳名

二松学舎教育研究振興資金の募金状況は、総額8億560万162円となりました(2022年10月31日現在)。ご協力に心より感謝し、厚く御礼申し上げます。

お知らせ

寄付者ご芳名の掲載が変わります

これまで「二松学舎新聞」で掲載しておりましたが、今後はホームページ上でご芳名のみ掲載に変更いたします（11月1日以降入金事務処理が完了した方より）。すでに入金済みの方で、ホームページ上のご芳名掲載を辞退される方につきましては、下記までご連絡をお願いいたします。

企画・財務課

☎ 03-3261-1298（月～金 9:00～16:30）

こちらには寄付者芳名を掲載しています。
詳しくは本紙をご確認ください。

こちらには寄付者芳名を掲載しています。
詳しくは本紙をご確認ください。

二松学舎「創立145周年記念募金」のお願い

学校法人二松学舎では、「二松学舎教育研究振興資金」の寄付金募集を行っておりますが、本年は、『創立145周年記念募金』として募集しております。この募金は、寄付金の用途を指定することができ、さらに、税制上の優遇措置が受けられます。（確定申告のお手続きが必要です。）

お申し込み方法の詳細につきましては、本学ホームページをご覧ください。ホームページからクレジットカード・ネットバンキング等で直接申し込みが可能です。スマートフォンで右下のQRコードから簡単にアクセスできます。

または、下記にご連絡いただければ、専用振込用紙をお送りいたします。

何とぞ、募金活動の趣旨をご理解いただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



企画・財務課

☎ 03-3261-1298（月～金 9:00～16:30）

創立145周年記念事業

2022年10月15日

『論語』の学校 -RONGO ACADEMIA- 栗山英樹氏が論語を活用した人材育成と組織づくりを講演

今年度で17回目を迎える『論語』の学校-RONGO ACADEMIA-が、2022年10月15日に開催された。今年度は創立145周年記念事業として、野球日本代表・侍ジャパントップチームの監督等、多方面で活躍する栗山英樹氏を講師に迎え、「論語でプロ野球」と題した講演会を行った。



選手とのエピソードを交えて『論語』を学ぶ大切さを講演する栗山英樹氏

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から一般参加は見送られ、大学在学学生（院生含む）および両附属校の在校生向けの限定的な開催となったが、当日は数多くの学生・生徒が聴講し活気ある講演会となった。

栗山氏は、北海道日本ハムファイターズ監督就任直後、勝てるチームづくりには何が重要なかを模索し、多くの経営者が勧める『論語と算盤』（渋沢栄一著）に出会った。以

降10年間、監督として関わった219人の全選手に同著書を勧め、選手育成を行った。講演の中では、大谷翔平選手（ロサンゼルス・エンゼルス）や斎藤佑樹氏（元プロ野球選手）ら数々の野球選手とのエピソードとともに、「論語」を学ぶことによって育つ倫理観の大切さや、信念を持つことの大切さ、そしてそれを実現するために努力することの大切さなどが語られた。

profile

くりやま・ひでき 1961（昭和36）年4月26日生まれ。東京都出身。東京学芸大学卒業。1984年ドラフト外でヤクルトスワローズ（現・東京ヤクルトスワローズ）に入団し、89年にゴールデン・グラブ賞を受賞、90年に現役を引退した。引退後は野球解説者として活躍し、2012年には北海道日本ハムファイターズの監督として就任し優勝、16年にはチームを日本一に導いた。22年からは野球日本代表・侍ジャパントップチームの監督に就任。北海道日本ハムファイターズのプロフェッサーとしても活躍。

私の一冊

#48



フラニーとズーイ J.D.サリンジャー(著) 村上春樹(訳) 新潮文庫、2014年

文学部 中国文学科 専任講師 和久希

理由もなく足が遠のいた蕎麦屋を久しぶりに再訪し、熱燗を待つあいだに開いたページには、いつか鉛筆で引いた線の痕跡が残っていました。

「賢人めいた人が足をひきずってやってきたら、気をつけなくてはならない」

女子大生のフラニーは、ボーイフレンドの発言の端々に見える自意識（それは恋人と週末を過ごす大学生にとって健全なものでしょう）を許すことができずに、その清廉な精神に混乱をきたしてしまいます。散々な週末のあと、ふさぎこむ妹のために兄のズーイが語りかけるのですが、その会話は彼女のもつ一冊の小さな宗教書、そして祈りをめぐって目まぐるしく展開していきます。そこにはすでに制度的な宗教が溶解した現代において、私たちは何を信仰しうるのか、あるいは何に依拠しながらこの不安定な生を営んでいけばいいのか、という根源的な問いが響いています。そして最後にズーイが長兄シーモアの言葉を借りて示した救済、それは名前のない太った婦人（何者でもない私たち自身）こそが私たちにとってのキリストなのである、という認識でした。

ここにきて私たちは、作品の背後にいるシーモア・グラスという名前の意味を知ることになります。

もっと鏡を見て！ See More Glass！

参加した学生の感想

母が日ハムのファンで、YouTubeで栗山監督の動画を拝見したことがあり、生で栗山監督の講演を聴いてみたいと思い参加しました。各選手とのエピソードの中で、「先入観にとらわれず相手をフラットに見ることが大切だ」というお話が心に残っています。今回この講演に参加し、「論語」は多くのことが学べるし、基準になるものだと感じました。人生や生活で悩んだときは、自分一人で答えを出すのではなく、「論語」などから考え方を学ぶのもいいなと感じました。

矢嶋美優さん (文学部国文学科3年)



野球好きの友達と参加を決めました。特に大谷選手がメジャーリーグへ挑戦するときのエピソードを「論語」にからめ、「成功や失敗の価値観から抜け出し正しい行為の道筋に沿って行動する、成功や失敗とはレベルの違う生活を送ること」という話が印象に残っています。人に指示されて仕方なくやるのでは意味がなく、自分で目標を見つけ、それを達成するために努力することが大切であり、人が大きく成長するには必要なことなのだ学びました。

吉野秀翔さん (国際政治経済学部国際政治経済学科1年)



クローズアップ -大学-

後悔しない進路・就職のためにいまやるべきこととは？

キャリアセンター

ここでは、これから就職活動が本格化する大学3年生・修士1年生（2024年3月卒業予定）に向けて、後悔しない進路・就職のために知っておきたいキャリアセンターの利用の仕方を、キャリアセンター副部長・小西明德さんに聞きました。



Q. キャリアセンターってどんなところ？

A. 就職活動を目的として訪ねてくる学生が多いですが、大学卒業後の進路全般についての相談を受け付けています。どんな相談でも構いません。気軽に立ち寄ってください！ただし、履歴書添削や面接トレーニングなどは、専門カウンセラーが時間をとってしっかりアドバイスしますので予約が必要です。

Q. 同じ職員に相談できる？

A. 希望は伺いますが、キャリアセンターでは学生の皆さんから受けた電話や対面での相談を、どの職員でも対応できるよう細かく情報共有していますので安心してください。

Q. 何から始めたらよい？

A. まず「二松ナビ」の登録を完了させましょう。1年生から利用できますので、まだ登録が完了していない学生はLiveCampusから登録してください。学年・時期に応じた情報を随時配信していますので、見逃さないよう日々チェックしてくださいね。

Q. コロナ禍で変わったことは？

A. ここ数年で、オンラインでの会社説明会や面接が定着し、今後増えていくでしょう。それに伴い、学生はこうした変化についていく必要があります。PCやタブレットのスキルは必須です。昨年キャリアセンターにプライベートボックスを3つ用意しましたので、オンラインでの会社説明会や面接に利用してください。

Q. 自分の強みが分かりません。

A. いわゆる「学チカ」といわれ、コロナ禍で大学やアルバイトが制限され、「学生時代に力を入れたこと」に悩む学生はあなただけではありませんので安心してください。企業はそのような状況で、あなたが努力し行動したことに注目しています。話して気が付くこともありますので、そんな悩みを抱える学生は、ぜひキャリアセンターに足を運んでください。私たちがお手伝いします！

キャリアセンター(九段1号館3階) 受付時間 9:00~16:30(月~金)

附属高校News

辻投手が広島育成枠3位指名！



左から鶴飼敦之校長、辻大雅さん、市原勝人監督、立野淳平部長

2022年10月20日、プロ野球ドラフト会議が行われ、プロ志望届を提出していた附属高等学校野球部投手の辻大雅さん（3年）が広島東洋カープから育成3位の指名を受け、2022年11月9日、附属高等学校に球団が指名挨拶に訪れた。

辻投手は「一番下からのスタートになりますが、ひたむきに練習し、早く一軍になれるよう頑張ります」とプロへの意気込みを力強く語った。

訃報 山極晃氏(客員教授) 2022年9月12日逝去。満93歳。(1994年〜2000年在職) 横浜市立大学教授を経て、国際政治経済学部教授として着任。